

香川県教育委員会 4月定例会会議録

1. 開催日時 令和8年4月20日(月)
開 会 午前10時00分
閉 会 午前11時10分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教 育 長	淀 谷 圭 三 郎
委 員	木 下 敬 三
委 員	蓮 井 明 博
委 員	鳥 取 美 穂
委 員	持 田 め ぐ み
委 員	武 田 真 由 美

4. 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	塩 田 広 宣
教育次長(兼)政策調整監	和 田 友 樹
教育次長	西 原 明
総務課長	景 政 孝 輔
義務教育課長	持 永 新
高校教育課長	橋 本 和 之
特別支援教育課長	三 宅 貴 将
保健体育課長	高 田 孝 行
生涯学習・文化財課長	篠 原 理 代 子
県立アリーナ管理運営室長	市 原 登 紀 子
義務教育課長補佐(兼)主任管理主事	小 山 圭
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	笠 井 真 希 子
高校教育課主任指導主事	高 鳥 光 郎
高校教育課主任指導主事	関 正 英
特別支援教育課主任指導主事	岡 孝 弘
義務教育課主任	神 原 徹 也
義務教育課主任	藤 沢 陽 大

傍聴人 1名

5. 会議録の承認

3月18日に開催した臨時会の会議録署名委員の鳥取委員から、同臨時会の会議

録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

3月27日に開催した定例会の会議録署名委員の木下委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第2号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「個人に関する情報であって、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあるもの」及び「県の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」に、該当するため、非公開としたい旨を発議。

7. 議 案

○議案第1号 香川県立アリーナ規則の一部改正について

県立アリーナ管理運営室長から、LEDパネルを調達したことに伴い、当該備品の使用料を定めるため、香川県立アリーナ規則の一部の改正を行うことについて諮る旨、説明。

【質疑】

＜蓮井委員＞LEDパネルは、何に使うのか。

＜県立アリーナ管理運営室長＞アリーナの中央部分に設置して得点を表示したり行事を説明するほか、サブアリーナの前の方に一面で吊り下げて行事の内容や名称を表示したりする。

＜蓮井委員＞何枚も合わせて使うのか。

＜県立アリーナ管理運営室長＞1枚が45インチで、組み合わせていろいろなサイズにすることができる。

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第2号 教職員の懲戒処分について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 小・中学校の新しい指導体制在り方検討委員会の設置について

義務教育課長から、小・中学校の新しい指導体制在り方検討委員会を設置し、新たな指導体制の検討を行うことについて説明。

【質疑・意見交換】

＜木下委員＞香川県も技能実習生など日本人以外の方の人口比率が2%弱だと思うが、小中学校において日本語を母国語としない児童生徒はどれぐらいいるのか。

＜義務教育課長＞調べて報告する。

＜教育長＞これは、令和9年度からの指導体制ということによいか。

＜義務教育課長＞早いものは令和9年度からである。来年度の予算編成に間に合うように報告書を作成する。

＜蓮井委員＞35人学級について意見が出ているようだが、教科担任制について意見は出ていないか。

＜義務教育課長＞香川型指導体制として小学校3年生から導入している教科担任制に対して好意的な意見があった。国の制度に先駆けてやっているもので、今後どうするか検討する中で議論していくことになる。

＜蓮井委員＞うまくいけばモデルケースになりうる。

＜小山課長補佐＞先ほどの日本語指導が必要な児童生徒数について、令和5年度の国の調査によると、現在200人前後いる。外国籍の児童生徒が160人程度で、日本国籍だが日本語指導が必要な児童生徒が約30～40人で推移している。平成26年度が100人前後であり、人数は増加している状況である。

○その他事項2 令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

高校教育課長から、令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について説明。

【質疑・意見交換】

＜鳥取委員＞国語は易しかったのかなと思う。今回、英語が二極化しているように見えるが、そのことについて、ご意見をお聞きしたい。

＜高校教育課長＞毎年、英語以外の教科は山型になっているが、英語だけが明確な山型にならない。単に覚えたらいいという問題だけではないので、どうしても得点層の下位の部分が増えてくる。一方で、難しい問題ができている生徒が少なくないことから、二極化していると思う。今年度の入試については、まだ明確に分析ができていないので、どういう状況か聞き取り等をしながら検討してまいりたい。

- <鳥取委員>自己推薦選抜の欠席者数が大幅に増えているが、この時点で進路を決めてしまっている生徒が増えているのか。
- <高校教育課長>欠席者の調べによると、自己推薦選抜の欠席者数が増えているのは、私立学校に合格したからという理由が非常に多くなっており、私立学校が決まったら、もう受検しないという傾向が強まっていると思う。
- <木下委員>学力検査の平均点の目標は大体 55%とされているが、今回は 60.6%だった。よほどのことがない限り平均で 5%も差が開くことはないが要因は何か。
- <高校教育課長>平均点を 55%と想定して作ったが、国語と社会の平均点が少し高くなっていることから、国語と社会の問題が少し易しかったのかなと思う。一方で、毎年の傾向であるが、理科、数学の平均点が低くなっている。理系離れや理系人材の育成が課題とされている中で、理科、数学の平均点の低さが非常に気になっている。
- <蓮井委員>確かに、標準偏差みたいに山型になっていないのは例年通りだが、いいところに焦点を当てると、今年度の特徴は 50 点満点のよくできる人が突出して多くなったということがある。また、二極化というとマイナスイメージがあるが、少し視点を変えると、もしかしたら英語がすごく得意な人が増えてきている傾向があるという解釈もできるかもしれない。そこも含めて分析していただきたい。
- <持田委員>3 点お聞きする。まず、今回、平均点が予想を上回ったということだが、合否判定に影響があったのか。次に、科目ごとに平均点を 55%と想定して問題を作成して合計が 55%となることを目指しているのか。また、得点分布を考慮した上で平均点を予想して問題を作成しているのか。
- <高校教育課長>1 点目の質問について、平均点が上がったことに関して各校の合否判定に影響はないものと思う。2 点目の質問について、各教科の平均点が 55%程度になることを想定して作問し、合計 55%になるように作るよう共通認識を持っている。3 点目の質問について、出題の方針として、まず基本的、基礎的なところを問いながら、一方で、実験、観察、資料等の表現力、観察力、判断力を見る問題を作成して、基礎、基本は何%ぐらい、思考力を問う問題を何%ぐらいというような形で、各教科で考えており、得点分布も考慮に入れながら作成している。
- <持田委員>予想よりも上がってしまったことについて、作問のチームの方々の感想はどうか。
- <関主任指導主事>数学の担当であるが、今年度は平均点が 55%より高くなった。数学は、難易度の高い証明問題や図形問題を初めからチャレンジしない受検生が一定数いたが、各校からの報告によると、今年度はそういった問題にもきちんとチャレンジしてきているとのことであった。そこに対する加点があって、平均点が上がったと考えている。
- <武田委員>全日制課程においては競争率が 1.02 倍になったということで、その影響として、私立学校や通信制に進学する方などがいるという説明があったが、香川

県内の私立学校の受験者数や進学者数とあわせて分析した資料等はあるか。
＜高校教育課長＞資料を提供する。

○その他事項3 令和8年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について

高校教育課長及び特別支援教育課長から、令和8年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について説明。

【質疑・意見交換】

＜武田委員＞県外就職の志望理由の中で、県内に希望する企業がないということがあったが、具体的にどのような企業を希望しているのか。

＜高校教育課長＞例えば、高松工芸高校の卒業生がたくさん県外で就職しており、先輩の話聞いて、給与や福利厚生等で安心できたり、先輩もいるということがある。大手企業とは、トヨタや日立等を希望する生徒がいるということである。

＜蓮井委員＞県内就職内定率が84.5%で前年より下がっているが、県内就職内定者数は793人と前年を上回っている。一方で、県外就職内定者も増えている。比率から見ると、県内就職内定率がこんなに大きく下がるのか。

＜高校教育課長＞今回、例年に比べて就職希望者がかなり多くなったというところもある。

＜蓮井委員＞県外就職内定者が前年より約40人増えているが、県内就職内定者も約40人増えている。

＜高校教育課長＞県外就職希望者が増えている。県内も割合が増えているのだが、より県外の割合の方が増えているので、県内の内定率が下がったと考えている。

＜副教育長＞増加数でいうと、県内が34人増、県外が38人増でそれほど差がないのに比率が3%変わるのか。

＜蓮井委員＞強調すべき点は、県内就職内定者数が増えたことよりも、県内就職の希望者が少ないということが大きな問題であるということか。

＜教育長＞県外就職内定者の割合が15.5%というのは過去最高か。高校の段階から、就職希望者の県外流出は相当増えている、その理由が県内に大手企業がないからということか。

＜高校教育課長＞特に今年は公務員志望者が多かった。

＜高鳥主任指導主事＞今年度は、県外の就職内定者数146人中、公務員志望者が44人ということで割合は30%、昨年度は108人中、公務員志望者が22人で割合は20%となっている。

＜蓮井委員＞県外就職の理由として、香川県内に有名な企業が少ないということがある。香川県はBtoBの企業が多くて、宣伝効果が高いBtoCで身近なものを提供する企業が多くないという産業構造の特徴もあるのだろう。大学生も同じである。だからそれだけに、これから県が力を入れて、奨学金返還制度等も含めて地元の企

業をよく知ってもらうことが大事である。地元希望の企業がない、有名な企業がわからない、ということが感覚的に染みついていると感じるので、時間がかかるかもしれないが、ほぐしていかなければならない。そのために、中学生、高校生、大学生が地元の企業を知る機会を増やしていく必要がある。

<高校教育課長>小中学校でふるさと教育はしているが、高校生という発達段階で、地元のことや地元の会社のこと、地元で頑張っている方との交流について、総合的な探究の時間等で地域との連携を一層推進していく必要があるのかなと思う。

<鳥取委員>県外の公務員を希望している生徒たちは、県内の公務員も希望しているのか。

<高校教育課長>今回、公務員を志望する44人の中には、自衛隊に入隊する生徒が非常に多かった。特に航空自衛隊は県内にはない。さらに、県警は、大阪府警や兵庫県警は受かりやすいようで、そちらに行っていると聞いている。

<教育長>生徒に地元の企業を知ってもらうのもよいが、親御さんや先生によく知ってもらいたい。そのような取組みはこれまでしていない。先生方、あるいは親御さんに地元にはこんないい企業があるということを知ってもらわないと県内定着は難しい。

<蓮井委員>大学の教員もそう言われている。地元の企業を知らない教員が多い。高校の教員も同じかと思う。

<高校教育課長>中学校の先生は、普通科に進学して教育学部に行く方が多く、我々の広報不足も当然あるが、専門学科のことをご存知ないところがあるので、中学校の先生の意識の変化、それから保護者の意識の変化という中で、中小企業家同友会等の団体と先生との交流を進めて参りたい。